

平成31年3月

## 普及活動報告

### ～極端な気象条件にも対応できる栽培 管理作業の徹底を～京丹波町小豆・黒 大豆生産者大会

(京丹波町：2日)

小豆品評会・黒大豆求評会における優秀生産者の表彰後、普及センターから「小豆・黒大豆の不作原因の分析と今後の対策について」と題して講演し、昨年のような極端な気象条件にも対応できる管理作業の徹底を呼び掛けました。また、黒大豆の初期及び生育期除草剤を用いた除草体系や小豆の作期拡大を目指した早播き・摘心栽培の試験結果について紹介しました。

より多くの生産者に来ていただけるよう、土曜日に開催したところ、昨年より50名参加が増えました。今後も、普及センターは関係機関と連携して、小豆・黒大豆の安定生産に向けて支援していきます。

場 所 道の駅「和」道路情報センター  
出席者数 120名



優秀生産者を表彰



減収要因とその対策を説明

表彰：小豆品評会 入賞者4名、黒大豆求評会 入賞者5名  
H30作付面積（京丹波町）：小豆23ha、黒大豆38ha

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年3月

## 普及活動報告

### 京かんざしの生育と出荷を振り返る ～2月で今年度の出荷が終了～

(南丹市・京丹波町：4日)



今年度の結果を関係者で協議

今年度の京かんざしは、夏季の発芽率低下により初期の出荷が少なく、また秋の高温により出荷時期が前倒しとなり、月別の出荷量に大きな変動が生じてしまいました。

これらを踏まえ、発芽を安定させ、継続出荷できるよう、次年度の播種開始時期について生産農家への指導を徹底することを確認しました。また、今年度の実証試験で根色向上に効果のあった施肥法について、より多くの農家で試行することになりました。

この内容を次年度総会（研修会）で報告及び提案し、安定出荷や根色向上に向けて、普及センターは引き続き技術的な支援を行います。

場 所 JA京都瑞穂支店

出席者数 6名

京かんざしは8月から翌年2月までJAを通じて市場へ出荷  
平成30年度 栽培農家16戸、栽培面積70a

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年3月

## 普及活動報告

### 「京都丹波農業応援隊」関係事業説明会 を開催 (全域：6日)



隊長（普及センター所長）があいさつ

小規模農家や集落営農組織でも取組可能な事業や、農業ビジネス、6次産業化を支援する事業、商工会が行う各種相談会・展示会や農業者が活用できる融資制度等について説明しました。

事業説明後に実施した個別相談会では、21組27名の個人・団体から相談が寄せられ、長時間にわたり熱のこもったやり取りが行われました。お聞きした相談内容を関係機関と情報共有し、個々の農業者の目標実現に向けて支援していきます。

場 所 園部総合庁舎  
出席者数 95名



個別相談会の様子

相談会の内容：小さな経営革新チャレンジ支援事業に関する相談3件、規模拡大に関する相談6件、販路拡大に関する相談3件、6次化に関する相談3件、法人化に関する相談2件等

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年3月

## 普及活動報告

### 賀茂なす部会平成31年産作付会議を開催 ～「安心・安全」な賀茂なすを消費者へ 届けよう～

(亀岡市：12日)



GAPチェックシートを見ながら取組項目の確認を行う

普及センターから、昨年の定期巡回で気付いた点やその改善策を提案しました。続いて部会の活動として、定植に向けての作業準備や、GAPチェックシートによる各点検項目について、地域別の班に分かれて確認を行いました。

来年度は、久しぶりに新規生産者を迎えることになっています。また、今年度は部会設立30周年に当たり、3月20日には記念大会が盛大に行われました（別項で報告します）。

場 所 JA京都亀岡中部支店  
出席者数 25名

平成31年度栽培予定 面積1.6ha、戸数21戸（詳細は集約中）

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年3月

## 普及活動報告

### ～地域農業を担う若者に大きな期待～ 亀岡市の実践農場で研修を開始

(亀岡市：13日)



普及センター所長から実践農場設置承認書を交付

今回開始した実践農場では、露地栽培のナスを中心に、将来の少量多品目の野菜栽培を見据え、様々な野菜について栽培研修が行われます。

開始式では、普及センター所長から研修生に実践農場設置承認書を交付しました。研修生から、農業を志した動機や「知識と技術を磨いて、京都府の農業を担っていけるような担い手を目指す」などと力強い決意が、指導者からは「仲間を作って、助け合いの中で技術を磨いて欲しい」と激励の言葉がありました。普及センターでは、確実な就農・定着に向けて支援していきます。



関係者揃って記念撮影

場 所 亀岡市役所  
出席者数 12名

亀岡市での実践農場（準備型）開始数は、平成26年度3名、27年度3名、28年度2名、29年度2名、30年度2名



平成31年3月

## 普及活動報告

### お互いの取組事例に学ぶ～南丹野生鳥獣被害対策研修会を開催～

(全域：13日)



各集落の取組を紹介

今年度、被害対策チームは、管内20集落を対象に「集落診断カルテ」を作成する取組を行っています。今回は、集落における侵入防止柵の維持管理と農地周辺における捕獲について、野生鳥獣対策連携センターによる講演に続いて、各集落での取組事例を報告し、柵の設置の仕方や、撃退用装置の使い方で工夫されている点について情報交換を行いました。

参加者から「タケノコを守るために寝ずの番を予定している」との事例紹介や「それぞれの地域で河川等の獣の出入りが容易な箇所での侵入防止法はないか」など質問があり、対策のヒントやお互いの悩みを共有しました。



参加者同士での情報交換

場 所 南丹市園部公民館  
出席者数 48名

南丹地域野生鳥獣被害対策チームは、亀岡市、南丹市、京丹波町、農林センター、南丹振興局企画調整室、普及センターで構成

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年3月

## 普及活動報告

### 新たな取組からこれからの加工活動を考えよう！～加工研究会が総会・研修会を開催～ (全域：14日)



研修会で新たな活動について報告するグループ員

総会では、今年度の活動の振り返るとともに、来年度の取組について協議しました。研修会では、新たな加工活動を行っている2グループから、地域と連携した新商品開発、今日的な課題であるHACCP及び本年度普及センターが支援を行った栄養成分表示への取組等の発表がありました。

参加者から、「HACCPや栄養成分表示の取組は複雑であり、普及センターからも支援いただきたい」という声がありました。普及センターでは引き続き、保健所等の関係機関と連携しながら、グループの加工活動を支援していきます。



熱心に報告を聞く会員

場 所 園部総合庁舎  
出席者数 45名

南丹地域農村女性・加工研究会 H30 会員数69名(30年4月現在)

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年3月

## 普及活動報告

### ～亀岡支部賀茂なす部会 ブランド認証 30周年を盛大に祝う～

(亀岡市：20日)



功労者表彰を受ける生産者

平成元年に賀茂なすがブランド認証を受けてから今年度で30周年を迎えたことを記念して、亀岡支部賀茂なす部会が式典を開催しました。亀岡市の桂川市長や農林商工部長の祝辞に続き、栽培20年の節目を迎えた功労者が表彰されました。また、ブランド認証審査会 藤田正会長による「賀茂なすを中心としたブランド京野菜の現状と将来」と題した記念講演が行われ、亀岡産の賀茂なすに対する期待が寄せられました。

部会長からも「賀茂なすの一大産地を守ることがこれからの目標」と決意表明され、部会全体が思いを新たにしました。普及センターは、新たに迎えた新規栽培者1名を含め、40周年に向け支援を続けていきます。



一堂に会して記念撮影

場 所 亀岡市蒔田野町

出席者数 73名

平成31年度栽培予定 栽培面積約1.6ha、栽培戸数21戸(集約中)

京都府南丹農業改良普及センター



平成31年3月

## 普及活動報告



統一栽培こよみの紹介と説明



今年の栽培管理作業のポイントを説明

### JA京都コギク部会亀岡支部・園部支部 合同の研修会が開催

(亀岡市・南丹市：22日)

JAから、過去4か年の出荷数量と単価の時期別推移が示され、平成29年を除きお盆過ぎの単価の急落は起きておらず、安定していることが報告されました。普及センターからは、新たに作成されたJA京都管内の統一栽培こよみについて、また栽培管理で重要となる排水対策と土壌水分管理等について説明しました。

「当地域では挿し芽育苗をしていないが、統一栽培こよみに載っている挿し芽育苗を試すにはハウスが必要か」「南丹と丹後で施肥基準に違いはあるか」などの質問がありました。普及センターは、今後も関係機関と連携して、コギクの安定生産を支援していきます。

場 所 JA京都園部黒田支店

出席者数 16名

亀岡支部生産者8名、栽培面積31a、園部支部生産者10名、栽培面積26a(H31計画)

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年3月

## 普及活動報告

### ～極端な気象にも負けない栽培を～ 黒大豆枝豆栽培研修会を開催

(亀岡市：28日)



JAから昨年の出荷状況を説明され、普及センターからは集中豪雨や猛暑等の極端な気象にも対応できる枝豆栽培を目標に、「排水溝の整備」「高うね深植え」「中耕・土寄せ」の重要性を説明し、基本技術の徹底を呼び掛けました。また、亀岡市特産の極早生の黒大豆枝豆(大黒早生)栽培についても、栽培こよみに基づいて説明しました。

生産者からは「肥料の銘柄が変更になっているが、今までの肥料とどう違うのか」「堆肥の効果は」といった質問がありました。今後も普及センターは、高品質な京夏ずきん・紫ずきんの安定生産に向けて支援していきます。

場 所 JA京都亀岡中部支店

出席者数 27名

平成30年度産実績(亀岡市) 京夏ずきん：栽培面積70a、生産者15名  
紫ずきん：栽培面積264a、生産者35名

京都府南丹農業改良普及センター

平成31年3月

## 普及活動報告



出穂期の確認方法を説明



出穂期の現地ほ場で確認

### ～ビール大麦の品質向上と契約数量達成を目指して～赤かび病の適期防除に向けて現地研修会を開催

(亀岡市：27日)

亀岡市平坦地のビール大麦が出穂期を迎えました。栽培上問題となる赤かび病の防除適期は、出穂期からおよそ15日後であり、これを見極める上で出穂期の把握が重要です。研修会では、室内で出穂期の見方について説明した後、現地ほ場で出穂の状況を確認しました。

参加者から「生育調査結果では地域によって茎数に差があるが、多い方が良いのか」など質問がありました。普及センターでは契約数量達成に向けて、JAと連携し、各ほ場の出穂期を把握するとともに適期防除を呼びかけます。

場 所 JA京都亀岡川東支店  
現地ほ場

出席者数 29名

平成31年産栽培面積は約95ha

京都府南丹農業改良普及センター